

報道関係 各位

国立国際医療研究センター
いのうえのぶあき
国際医療協力局井上信明医師が
フランス・リオンに拠点を置く WHO アカデミーの
諮問グループ委員に任命されました

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）国際医療協力局の井上信明医師が、2024年に WHO（世界保健機関）により設立された『保健分野における生涯学習に関する WHO アカデミー（WHO Academy）』の諮問委員 12 名の一人に任命されました。

WHO アカデミーは、世界のあらゆる地域において、臨床の現場だけでなく行政などのさまざまなレベルで活動する保健人材が、科学的根拠に基づく医療関連情報に迅速にアクセスでき、それぞれが直面する課題解決に役立てることを企図した、保健人材向けの生涯学習プラットフォームです。最新のデジタルツールを駆使し、オンラインで提供される学習コンテンツだけでなく、リオンではオンサイトでの学習機会が提供されます。

井上医師は、保健人材開発、小児救急、公衆衛生の専門家で、日本国内における保健人材の育成だけでなく、2017 年以降はモンゴルやブータンにて、医学教育の質の向上に取り組んでいます。

井上医師は、今回の任命にあたり「選ばれたことに正直驚いていますが、これまで様々な国で、病院から国レベルまで、研修カリキュラムの開発に関わらせていただいたことを評価していただいたのだと思います。世界のあらゆる地域の医療者の方々に、適切な医療情報やスキルを身につける機会をお届けすることができるよう、皆様のお力もお借りしながら貢献したいと思います」と抱負を述べています。

任期は 2024 年から 2 年間の予定です。



井上信明医師

★井上信明医師プロフィール

1996年 奈良県立医科大学卒

2002年 ハワイ大学小児科レジデント

2005年 ロマリンダ大学医学部救急科小児救急フェロー

2009年 豪州マーター小児病院救急科フェロー

2010年 都立小児総合医療センター 医長

2016年 国立国際医療研究センター 国際医療協力局 人材開発部研修課

現在国立国際医療研究センター 国際医療協力局 人材開発部 研修課課長

2017～2021年

モンゴル「一次及び二次医療施設従事者のための卒後研修強化プロジェクト」 チーフアドバイザー

2023年～

国際協力機構（JICA）ブータン王国「医学教育の質の強化プロジェクト」

及びモンゴル「医師及び看護師のための卒後研修制度強化プロジェクト」 短期専門家

日米小児科 専門医 / 米國小児救急 専門医 / 公衆衛生学修士（国際保健）

【国際機関で委員等「規範セッター」を務めている国際医療協力局局員】

国際医療協力局には「規範セッター」と言われる「高度な専門性を持ち国際的組織技術諮問委員などに参加し、国際的規範・基準づくりに携わる委員」※が多く在籍し、WHO ガイドラインの策定や評価等に携わっています。

「国際規範をつくる場」に日本人をおくり、国際的影響力を強めていくことは、保健医療外交上もきわめて重要なことです。

※厚生労働省 国際保健に関する懇談会 国際保健政策人材養成ワーキンググループ報告書より

2024年3月現在

局員	委員名等	就任時期 任期
井上信明 研修課長/医師	WHO アカデミー:保健分野における生涯学習に関するWHO アカデミー諮問グループ	2024年～ 2年
大川純代 上級研究員	WHO 本部:ガイドライン評価委員会 外部委員	2023年12月～ 3年
清水栄一 上級研究員	WHO 本部:ワクチンのマーケットアクセス向上に関する技術諮問委員	2023年6月～ 2年
駒田謙一 医師	パンデミックファンド:技術諮問委員会 技術諮問委員	2023年～ 2年
永井真理 専門職/医師	WHO 本部:避妊具の使用に関する医学的な適格基準および具体的な実践に関する推奨の策定委員会	2022年11月～ 定めなし
	WHO 西太平洋地域事務局:ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ技術諮問委員	2023年7月～ 3年
野崎威功真 医師	グローバルファンド※:技術審査委員会 技術審査委員(HIV)	2020年8月～ 4年
宮野真輔 専門職/医師	グローバルファンド※:技術審査委員会リーダーシップ(副議長)、技術審査委員(結核、HIV)	2023年9月～ 2年 2018年5月～ 定めなし
	WHO 西太平洋地域事務局:HIV 梅毒母子感染排除に関するアジア太平洋地域専門家パネル委員	2018年5月～ 定めなし
小原ひろみ 専門職/医師	WHO 西太平洋地域事務局:新生児プログラム独立レビューグループ委員	2015年11月～ 定めなし
	WHO 本部:「妊娠出産と周産期の優先 WHO 推奨改訂」に関するガイドライン策定委員	2018年5月～ 複数推奨策定完了まで
	WHO 本部:母と新生児情報の成果と結果トラッキング技術諮問委員会 委員	2020年12月～ 2026年4月

※グローバルファンド (グローバルファンド日本委員会ホームページ <http://fgfj.jcie.or.jp/global-fund> より)

和文組織名:世界エイズ・結核・マラリア対策基金 略称:グローバルファンド

低中所得国の三大疾病対策のために資金を提供する機関として、2002年1月にスイスで設立。

国際社会から大規模な資金を調達し、低中所得国が自ら行う三疾病の予防、治療、感染者支援、保健システム強化に資金を提供。支援の対象は、100以上の国・地域にのぼる。年間拠出額は約30億～40億ドル。

【NCGM 国際医療協力局について】

NCGM 国立国際医療研究センター国際医療協力局は、グローバルヘルス分野における専門機関として、厚生労働省、外務省、国際協力機構（JICA）等の政府・関係機関や、世界保健機関（WHO）をはじめとする国際機関、大学・研究機関・学会等のアカデミア、さらには NGO や企業等の幅広いパートナーと連携し、低中所得国における技術協プロジェクトへの専門家派遣、国内外の保健医療人材の育成のための講座や研修の提供、国際保健医療の研究、国際会議等を通じた政策提言など、低中所得国の医療や保健衛生の向上を図るためさまざまな活動を行っています。

★本件に関するお問い合わせ先

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

国際医療協力局 広報情報課

崑 弘人

〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1

TEL : 03-3202-7181（代表）内線：2744、PHS：5525

E-mail : koho@it.ncgm.go.jp

<https://kyokuhp.ncgm.go.jp/index.html>